

平成31年1月1日号掲載 市報ひがしまつしま

## トッランナーがSDGsを語る！



### 持続可能なまちづくりへ

## インタビュー全文 第4回 高橋宗也宮城県議会議員

問. 東松島市のSDGsの取組の現状についてどのように感じますか。

答. まだ当市にとってSDGsは理解の段階だと感じています。ただ、前段となる環境未来都市政策について先進的なモデルにも取り組んできたところですので、そこを伸ばしていくいいチャンスだと考えています。

また、今後SDGsは標準的な取組になっていくものと私は考えていますが、SDGsは2030年まで国連で採択されている長期的な総合計画とも言えますので、それについて早めに取り組むことができ良かったと思っています。

問. SDGsでは持続可能なまちづくりが求められていますが、「持続可能な社会、まち」を創造していくために必要なことは何だと考えますか。

答. 日本の場合、これまでは政府も国も経済偏重の政策がとられてきたかと思えます。このこと自体はもちろん大切なことなのですが、我々の子孫もしっかりと幸せに暮らしていけるようにするためには、社会と環境も合わせて考えて伸ばしていかなければ、持続可能な社会にはならないと思います。

今回はまさに、SDGsにおいてその点を17のゴールをしっかりと定めているので、それに向けて全世界で取り組んでいくということです。

経済だけでなく、社会、環境も全てセットで考えていくということが大切です。

問. 現在東松島市は地域の資源を活用して地域を盛り上げていこうとしていますが、持続可能な社会づくりを実施していくために必要なことは何だと考えますか。

答. 市だけで17のゴール全てを総合的にやっていくということは難しいと思います。ただ、市としてはこれまで復興や防災の点を最重要課題として取り組んできましたし、復興の完成が第一です。同時に少子高齢化対策（子育て支援

含む) は、ここ2～3年のうちにしっかりと備えておかないといけないと感じています。少子高齢化はもう避けられません。いかに高齢化を緩やかにするかなど、対策をしっかりと進めることが重要です。その中でSDGsのゴールや指標はとても参考にできると感じています。

あとは自然環境も大切です。被災地において環境復興などはまだあまりやっているところはありません。自然環境をこれからの未来の人々にもしっかりと受け継いでいくということも大切だと思います。

問. SDGs 未来都市に選定されたことの意義やそれに伴う可能性についてどのように感じますか。

答. 2030年になったとき、今の社会はどのような構造になっているか考えましょう。2025年には団塊の世代が後期高齢者となります。そこから5年後、人口減少社会はさらに加速し、必然と多死社会が訪れると思います。その中では、高齢者も少なくなってしまう社会に進んでいきます。その中でも持続可能な地域づくりを進めていくためにはどうしたらいいか。それは市民一人ひとりの力にかかるところが大きいです。今よりももっと広い視野で地域を見つめ、グローバルな考え方ができる人財育成にもつながるのではないかと思います。

問. 東松島市SDGs 未来都市計画では、子ども若者、高齢者の人材育成をテーマにしています。市民の皆さんへのメッセージをお願いします。

答. 自分のためだけではなく、大きな目標を持って、社会に寄与していく気持ちを持ってほしいですね。人のためなら、人は頑張れるものです。SDGsは社会をより良くしていくための一つのツールと考えてください。小中高校生、大学生の皆さんには、ぜひグローバルなものの考え方を養っていただきたいです。東松島市は、震災後国内外のさまざまな人々から助けられ、支援を受けました。その感謝の気持ちを忘れず、復興した地域の姿を見せることが一番の恩返しに繋がります。そのためにも、「グローバル」というキーワードを胸にとどめてほしいですね。

